

当社はこのほど本店事務所を福岡市渡辺通りの電気ビル本館4階に移転した。電気ビルは、言うまでもなく九州電力株式会社の総本山であり、福岡でも有数のビルディングの一つである。面目を一新した本店の内部をカメラで紹介すると……。

—— カメラ見てある記 ——

本店新事務所風景

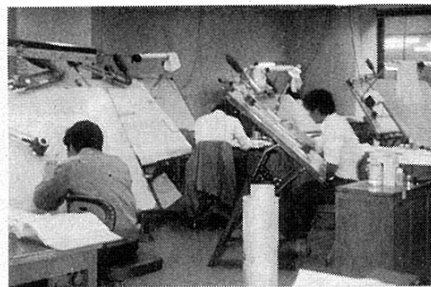
一段と機能的に



△ 電気ビル本館（奥のビルは別館）この4階が当社事務所である。



△ 会議室



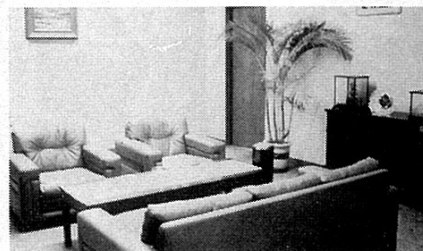
△ 設計室。これのみ3階にある



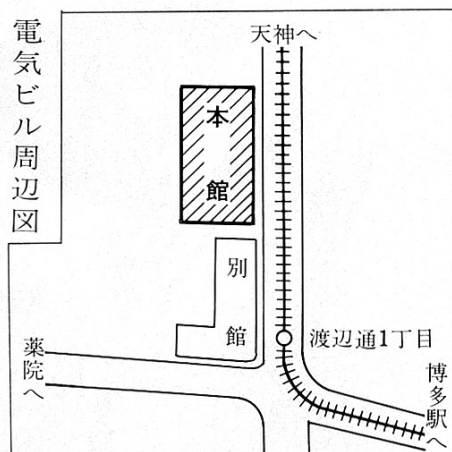
△ 広くなった事務所内。手前側が事務系、奥が技術系の各課



△ 見積資料室



△ 応接室



51年度の新入社員が入社してから1ヵ月半がたった。この間、志賀島での意識教育、そして、機械系が大村、電気系が唐津、溶接系が福岡工務所に分かれての専門教育、技能教育と、一連の教育研修が行われて来たが、このほどその研修も終わり、5月17日からいよいよ各現場に配属されることとなった。

この1ヵ月半、これまでの学生時代とは全く違う生活を送った彼ら。今、彼らは何を考え、何をしようとしているのだろうか。ここに、新入社員の感想レポートの中から2、3紹介してみたい。

充実した研修期間

(立命館大卒) 岡部千年

入社して1ヵ月半、いよいよ新入社員としての研修も終わりを迎え、来週からは現場配属である。今ふり返れば貴重な思い出となる45日間であった。この期間が実際の仕事にすぐさま役立つものでもないし、特別に人間が変化させられる様なこともなかった。しかし、序々に社会人としての自意識が確立させられていったのは確かである。

志賀島での10日間は、集団活動がテーマであったが、とにかく10日間集団で生活し、それをある程度規制してもらっただけで十分で、テーマの目標に到達することよりも、過ぎた10日間をつかんだものが、個人差こそあれ、貴重であったと思う。そして唐津事業所での1ヵ月間は、綿密に組まれたスケジュールを一つひとつ消化しながら、NPCの概要

新入社員感想レポート

新入社員教育を終えて

をつかむことができた。

このような経過のあと、実際に現場に出てみたり、事業所の人と話したりして、この会社に入ったことが生涯悔やむことのないものと確信できた。今後は、いかに自分の足場を築いていくかが私のテーマであり、生活でもある。

人間の性格とは変え難いものであり、だからこそ人生が楽しくもなるのだが、私の場合、何でも正当化したいという性分である。自分で何でも納得したいのである。私は、去年の6月以降今日まで、私が歩き、選んだこの道が間違いはなかった。いや、これが最良の道であったと信じる。発電所内のタービン・発電機を一目見ただけでそう確信できた。

研修も終わろうとする今、入社式の当日が遠い昔のように思えるが、これは、その日を、本当に1分1秒かみしめながら生きていることの証(あかし)でもあろう。一日が終わり、寮に帰るとき、発電所の煙突や建家をながめながら、満足きった気持ちで歩く。これを忘れないでいたい。

私の将来のアウトラインは、とにかく電気知識・技術を全て吸収すること、そして、定年を迎えるまで発電所の建設に従事すること。この目標に沿いながら、自分の足場を拡充していきたいと思う。

早く立派なNPCマンに

(緒方工校卒) 小笠原幸男

時の過ぎるのは早いもので、入社して、はや1ヵ月半になる。高校入試や入社試験よりもずっと緊張した入社式を終えて、志賀島での10日間の意識教育を受け、そして大村事業所での約1ヵ月間の専門・技能教育も終わり、いよいよ現場で働く時が来た。

志賀島での意識教育は、自分にとって大変有意義なものだった。青々とした海、緑の草木の中で、新鮮な空気に包まれて新入社員全員が集団生活を行い、出された課題の討議などに真剣に取り組んで、お互いに理解し、信頼の和を築くことができた。朝早く起きての海岸ぞいのランニングもそう快であったし、ランニングの後の朝食も実においしいものだった。ただ一つ残念な事は、この教育期間中にカゼをひいてしまい、みんなに迷惑をかけてしまった事である。本当に申しわけなく思っている。

志賀島での教育を終えて、大村での専門・技能教育に移ったが、先輩講師のみなさん全員、ていねいに、私たちに少しでも多くの事を学ばせようと、熱心に教えてくださった事に感謝している。しかし、自分がそ

れに応えるだけの事をやれたかどうか、今から思うと少し気になる面もある。

ここで学んだ実習は、学校で行ったものとは違った何かがあり、大変為になった。また、学校ではやらなかった実習もあって、初めてこずるようなこともあり、変化に富んだ楽しいものだった。

さて、これから現場に出ていくわけだが、この教育期間中に学びとった事を基にして、先輩の良い所を自分のものとし、同時に、自分の持っているものを精一杯出し切って、1日も早く立派なNPCマンになるよう頑張るつもりである。

この道しかない と 確信

(都城高専卒) 長嶺隆美

4月1日、西日本プラント工業の一員となってから1ヵ月半がたちます。この1ヵ月半の新入社員教育の間にたくさんの出来事がありました。その一つひとつは、私にとって非常に有意義なものだったと感じています。

学生生活から社会人としての生活の転機に、自分と同じ不安、期待を持った新入社員の心に直接触れたことは、私の心を整え、新しい生活を始める心構えを身に付ける上で

役に立ったというより、無くてはならないものだったような気がします。

志賀島での意識教育、唐津での専門教育、技能教育、そのどれをとっても、その中における対人関係において、学生時代にはなかったような事を経験できました。特に、唐津での先輩の頼しみあふれる指導は、とてもうれしく思いました。

短いながらも社会人としての経験を積んだ今、学生時代の気持とは違う何か、自分はこれから社会でどう生きていくべきか、を考えずにはいられなくなりました。このことは、人生のいかなる時でも考えていかなければならない事ですから、いま結論が出るものとは思っていませんが、自分は、これから技術者として生きていくというだけは、はっきり自覚したつもりです。

新入社員教育の中に専門教育、技能教育はありましたが、現在私自身が持っている技術、知識は微々たるものでしょう。しかし、そういう教育の中に、自分の技術者としての可能性を見つけ出すことに、専門教育技能教育の意味があったように思います。

私は、小さい時から機械類が好きで、技術者にあこがれていました。そして技術系の学校を卒業したわけですが、この1ヵ月半の間に先輩技術者の温かい心に触れ、私の職業とするものは技術者しかないことを確信しました。

故に、この1ヵ月半は、私の運命を決定した一瞬であったと言うことができます。志したからには、今の気持ちを忘れずに、1人前になるまで精一杯努力する覚悟です。